

### 1-3-6 回答の中にあつた、被害物品

#### ■落ちた

黒板・掲示物・照明・電話・植木・本・製氷機・パソコン・プリンタ・加湿器・お薬の缶・コーヒーの缶・食器・オートクレーブ・書類ケース・花瓶・壁掛け扇風機・ゴム製湯たんぽ・テレビ・掛け時計・電子レンジ・ミシン・棚に入れておいた洗剤・コップ・トイレットペーパー・廊下の乾湿度計・ポット・歯鏡・探針・ファイル

#### ■こぼれた

手洗い鉢の消毒液・石けん水・灯油・薬品

#### ■壊れた

花瓶・鉢・コーヒーカップ・コップ・冷蔵庫・身長計・体重計のガラス・座高計・視力計・救急用台車・書庫・薬品庫・薬品庫のガラス・鏡・ストーブ・丸テーブル・洗濯機・プリンター・ガラス製品

#### ■倒れた

入り口のドア・テレビ・花瓶・パソコン・スチールロッカー・カラーボックス・ついたて・観葉植物・姿見・身長計・視力計・担架を保管していたケース・戸棚・薬品庫

### 1-3-7 まとめ

マグニチュード 9.0 を記録した、東日本大震災直後の保健室の状況は、無惨な状態であった。4月7日の余震が、さらに被災状況に追い打ちをかけたという記録が何件かあった。

この質問では、「直後の保健室室内」の状況を問うたつもりであったが、回答が多様であった。これは、質問項目の曖昧さによるところでもあるが、震災の規模が大きく震災直後に最優先で行われていた、児童生徒や避難者の人命を守るための救護活動が「直後」という言葉から、導き出されたものであると推測もされる。「避難所や救護体制がどのように行われたのか」や「児童生徒がどのようにしていたか」の記録が約 20% あった。

保健室の被災状況の記入に、「ほとんど破損・散乱なし」の学校が 83 校あった。各教育事務所管内でその数は 20% 程度であったが、震度 7 を記録した北部栗原教育事務所管内では、その数が低く 14.7% であった。この地区では非常な揺れによる被害が広範囲でみられたことになる。

今回甚大な被害をもたらした津波による被害は、記録の中では 8.7% であった。津波の被害を受けた地区のアンケートの記入状況は約 60% であったため、この値は現状より低くなっていると考えられる。壊滅的な被害に遭われた先生方は、とてもこのアンケートには回答できなかったのではないかと思う。

保健室が、多様な被災をしていた。保健室の特色として他の教室にはないものが置かれている。それが震災の中で落ち・倒れ・壊れ・こぼれた。養護教諭の避難道がふさがってしまった学校もあった。今後の参考とするために、回答内容を何点か紹介させていただいている。

東日本大震災では、宮城県全体が地震で揺れ、さらに沿岸部では津波被害に見舞われた。各学校の立地状況や校舎の構造から保健室の被災内容は千差万別であった。このことから考えると、今後の災害に備えるには、各校の立地状況に合わせた災害予想に対応できる対策を考えておくことが必要であると言える。

「すべての流出」から、一步一步復旧復興されている先生方に頭が上がらない。

## 1-4 平成 23 年度 定期健康診断の実施状況

### はじめに

健康診断は、子どもの教育を円滑に行うための保健管理の中核であるとともに、子どもの生涯にわたる健康保持増進のために必要な実践力を育成するための教育活動の一つであるとして、学校保健安全法第 13 条で、「学校においては、毎学年定期に、児童生徒等の健康診断を行わなければならない。」とされている。また同 14 条では、「学校においては、前条の健康診断の結果に基づき、疾病の予防措置を行い、又は治療を指示し、並びに運動及び作業を軽減する等適切な措置をしなければならない。」と述べられている。

東日本大震災後に出された宮城県教育委員会の報告によると、平成 23 年 6 月 22 日付け「当面校舎等を使用できない小・中学校一覧」に、小学校 33 校、中学校 17 校（小学校 441 校、中学校 217 校のうち）が上がっていた。また、宮城県教育庁高校教育課から出されていた 4 月中の記者発表資料によれば、特に大きな被害のあった学校は 5 校が上げられていた。「校舎がなくなってしまった。」「校舎の安全が確認されないために使えない。」学校が大変多く、県内の広範囲で、甚大な被害を受けたことが分かる。しかし、近くの学校や各市町村の建物のスペースを利用し、小中学校では同年 5 月 10 日までにすべての学校で始業式が行われたとされた。多くの学校が、震災の爪痕のある中でそれらを復旧しながら、また、避難所が学校内にある状態での新年度のスタートとなった。

健康診断の日程は、前年度のうちに校内の諸行事との調整はもちろんのこと、学校医の先生や関係機関と連絡調整して計画される。3 月 11 日は、次年度の検診日程がおおよそ決定していた時期であったと思われる。これらの計画に基づいた発育測定が、どのように実施されたかの調査をした。

※アンケートでは身長・体重・座高・視力・聴力検査を発育測定とした。

### 1-4-1 発育測定（身長・体重・座高・視力・聴力の検査）

#### 1-4-1-1 発育測定実施状況

「計画どおり発育測定が実施された学校」は、図 15 のとおり 268 校（38.1%）だった。何らかの変更を余儀なくされた学校は、435 校（61.9%）。およそ 3 分の 2 の学校が計画どおりにはできなかった。発育測定は、学校の始動とはほぼ並行しながら、全職員により実施される。多くの学校で始業式が 4 月 8 日（金）から 4 月 11 日（月）以降などに延期されたことが、この結果に影響していたものと思われる。

図 16 は、「実施時期の遅れ」について調べた。「変更なし」の学校 278 校で、計画していた時期より「1 週間遅れ」が 93 校（13.1%）。全体的に 1 週間の遅れで終了した学校が、52.3% となり約半数であった。また、「2 週間遅れ」の時点では、約 75% の学校で終了となっていた。震災により被災したと回答した学校が 55.2% もあった中では、学校行事の変更も多々あったと思われる。その中で、「発育測定」の実施が上記のように

図15 発育測定の実施状況

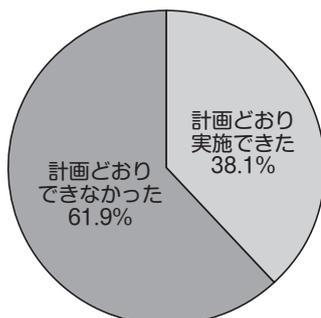
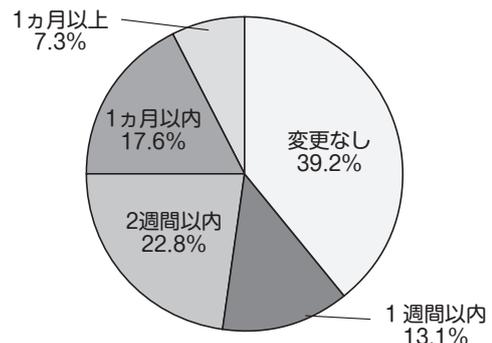


図16 発育測定実施時期



早期に終了していたことを考えると、多くの学校で「発育測定」をなるべく計画どおりに実施しようとしていた様子がうかがわれる。

「1カ月以上」実施時期が遅くなった学校は、52校で7.3%という結果だった。これらの学校では、校舎や保健室の壊滅的な被災から、検診場所や検診器具の物理的な検診環境の確保ができなかったという回答があった。



平成23年4月18日 視力検査

図17では、「被災状況別」の「発育測定実施状況」を調べた。昨年度までと同じ通常の教育活動ができた「被災なし」という学校でも、「計画どおり実施できた学校」が47.9%と半数に満たなかった。特別に被災しない中でも、何らかの変更を余儀なくされていた学校が多かったことが分かった。

また、「地震」のみの被災では、「計画どおり実施できた学校」が34.6%だったが、「津波」により被災した学校での値は、9.3%にとどまっていた。「津波」の被害の発育測定に及ぼした影響が非常に大きかったことが分かる。

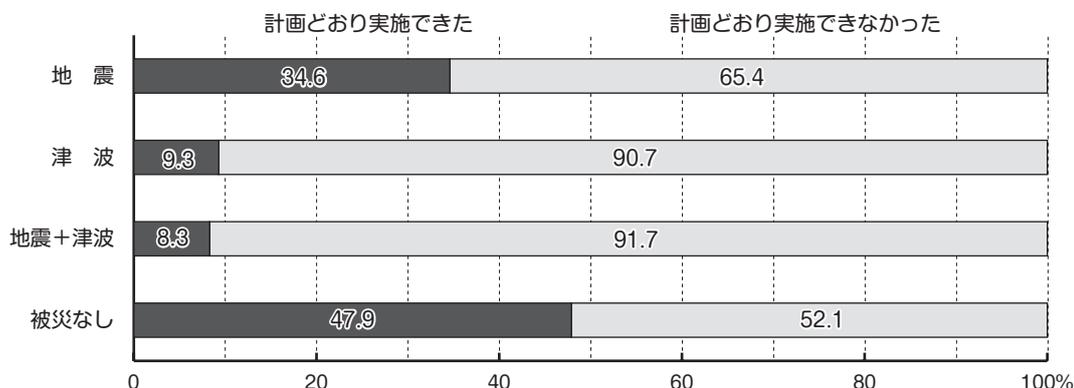
図18では、被災状況別に「発育測定実施時期」の遅れを調べた。「1カ月以上」の遅れに注目してみると「地震と津波」による被災を受けた学校では33.3%、「津波」による被災を受けた学校では34.9%がとなっていた。しかし、「地震」による被災の場合は5.0%となっていて、「被災なし」の状況4.1%とほぼ同じ状況であった。

この結果から、今回の震災が、「地震」のみによる被災の場合、例年どおりに実施できた学校が40%程度であったと推測される。「津波」が実施時期の大きな遅れを発生させていた。

表1-4-1(1) 被災状況別発育測定実施状況(校) N=703

	計画どおり実施できた	計画どおり実施できなかった	合計
地震	111	210	321
津波	4	39	43
地震+津波	2	22	24
被災なし	151	164	315
合計	268	435	703

図17 被災状況別発育測定実施状況



また、「地震+津波」や「津波」による被害を受けながらも、「1カ月以内」の遅れにとどめることができた学校が約65%となっていた。壊滅的な環境の中で、発育測定をわずか1カ月くらいの遅れで実施させるには、各学校の先生方の並々ならぬ努力があったと思われる。

図18 被災状況別発育測定実施状況遅れ

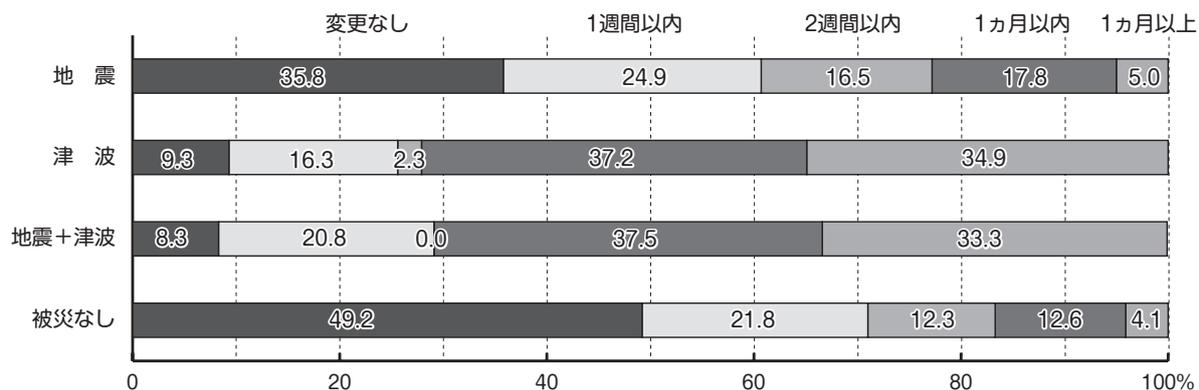


図17と図18のデータに違いがみられる。これは、回答者の回答に差があったことによる。

発育測定で苦労したことの記述の中に「体重計が浸水して使用不能となったため（3台全滅）、他校から借りた。視力計のリモコンも浸水したので、紙で測定した。」とか「校内全ての計画などが決まらず、先生方も子どもたちも落ち着かない中で計画を組むのが大変であった。」等があり、計測器のやりくり等にそれぞれの地区の養護教諭同士が協力し合っている姿や、養護教諭自身のいろいろな工夫が必要であったことが伝わってきた。さらに教育活動や子どもたちの不安定さの中での実施の様子や、転出入の児童生徒も多く、全員が測定終了するまでにいろいろな面で苦労したことについても記されていた。

「発育測定の実施」と「避難所の開設」の関係を、図19に示した。「避難所を開設しなかった学校」に「計画どおり実施できた」がやや多いことが分かる。

表1-4-1(2) 避難所開設状況と発育測定(校)

N=709

	計画どおり実施できた	計画どおり実施できなかった	合計
開設した	132	238	370
開設しなかった	137	202	339
合計	269	440	709

図19 発育測定と避難所開設の関係

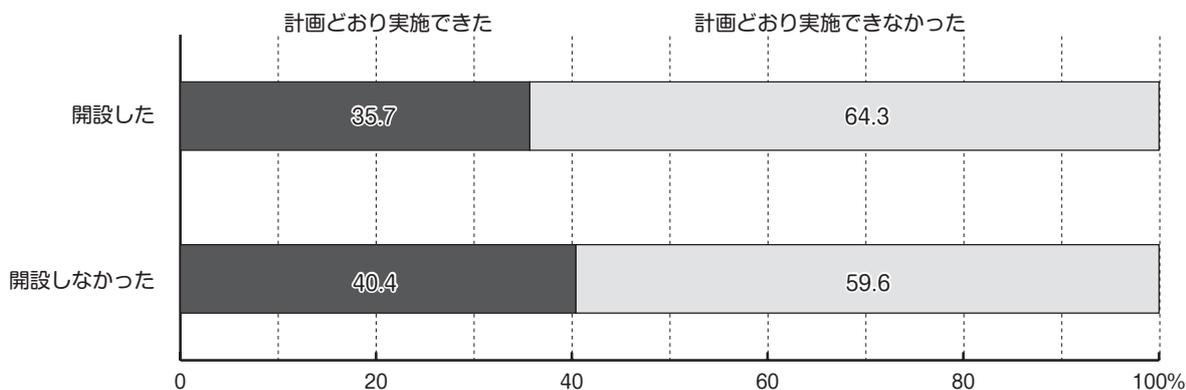
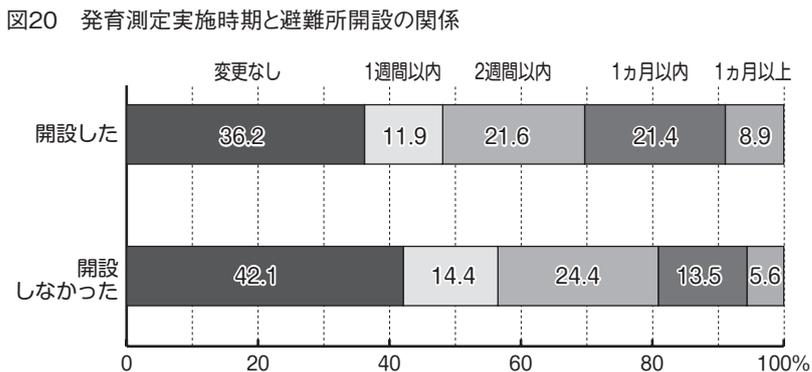


図 20 では、「避難所開設」と「発育測定実施時期」の関係を示した。

「避難所を開設した学校」に、「1 カ月以内」と「1 カ月以上」の遅れも多かったことが分かった。「避難所の開設」が「発育測定の日程」を長期間遅れさせていたことになる。



### 1-4-1-2 発育測定実施上で苦労したこと

震災後に地域住民の避難所になっていたり、津波や震災の被害で校舎が使用できなくなった学校もあり、「発育測定の実施で苦労した点」の中では、「実施日程・時間の確保」と「健診場所の確保」が困難だったという回答が多くあげられている。カテゴリ【 】, サブカテゴリ< >, コード〔 〕で表記する。

#### (1)実施日程・時間確保の困難さ

回答を寄せた 106 人中、【実施日程・時間の確保の困難さ】には、44 のコードがある。その中では、<他の学校行事との日程調整> 15 コード、<短期間内への健診のつめこみ> 10 コードと、短い期間に、発育測定とその他の健康診断を様々な学校行事と合わせて実施していかなければならず、計画を立てること、日程調整をすること、身体計測の時間を確保することが難しかったことが分かる。

また〔検査が終わっていない〕というコードも 2 つあり、通常では、放送室のような防音された部屋で行う「聴力検査」ができていなかったり、「視力の二次検査」が後回しになっていたりしている。

他に「共同生活をしている他校との連絡調整」や「校医健診・検査機関が行う検診との連絡調整」もあり、発育測定の実施をより難しくする要因になっていた。

#### (2)健診場所確保の困難さ

発育測定をする際に、【健診場所確保の困難さ】を掲げたものが、26 コードあった。その中では<場所の確保>が 18 コード、<場所が狭い>が 5 コードあり、通常の校舎や教室が使えなくなっていた学校の苦労があった。〔廊下で実施〕〔狭いホールを使用〕〔授業する教室を使用〕するなどして実施したために準備が大変になり、「会場が狭く、予定時間内で終了しない」という状態になっている。

<適切な聴力検査実施場所の確保>ができなかったというコードが 3 つあり、〔検査が終わっていない〕〔正確に検査ができなかった〕という状況になっている。

#### (3)事前準備の苦労

<事前準備の苦労>は、6 コードあり、〔津波による書類流失〕で、〔健康診断に関わる書類を用紙からつくることになった〕という深刻な状況や、日程がつかまっていることから〔事前指導が不十分になりがちだった〕ということがあげられている。計画立案や物品の準備に手間取り、間借り施設をどのように使用して、発育測定を実施するかという工夫が必要となるなどの苦労があった。

#### (4)使用器具準備の困難さ

健康診断で使用する器具には、地震の揺れで〔倒れて破損〕したもの、〔水没でサビや不具合が出た〕ものがあった。使えなくなった器具についての記述は、4 コードあった。

宮城県全体では、「発育測定が計画どおりに実施できた学校」は、38.0%であり、6 割以上の学校では、何

らかの支障が出ている。「避難所を開設した学校」では、発育測定の実施が遅れる傾向にあり、さらに「津波による被害を受けた学校」では、発育測定の実施が大きく遅れているデータから、仙台市内でも、使用できなくなった校舎や津波の被害を受けた学校があり、前述の実施日程や場所の確保に加えて、【使用器具の準備の困難さ】もあった。

〈担当:早坂・菅澤〉

表1-4-1-2 発育測定実施上で苦勞したこと

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的なコード	コード数 (106人が解答)
実施日程・時間の確保の困難さ	実施計画の立案	〔校内全ての予定などが決まらず、予定を組むのが大変〕〔いつから学校で使用できるようになるのか、見通しが立たず、日程を決めたのも実施直前になった〕〔計画が立てられなかった（本校はどこで学校生活をするか決まらなかったため）〕	5
	実施時間の確保	〔時間を確保することがかなり難しかった〕〔時間の確保が難しかった（中総体前に放課後の時間を利用するのは申し訳ない、測定を担当する先生も部活をもっていた）〕〔島でスタートが決まっても船が臨時便で早く帰らなければならず、放課後の時間がとれず、どの時間で実施するかも考えながら大変〕	4
	他の学校行事との日程調整	〔他行事との調整に苦勞した〕〔日程調整がうまくいかなかった（授業時数の確保のため）〕〔日程調整〕〔日程調整が難しかった（遅らせた日程も健診が入っていたため）〕	15
	共同生活をしている他校との日程調整	〔学年ごとに受け入れ校と日時や場所を調整して実施〕〔他の中学校と生活しているため、日程調整が面倒だった〕	2
	学校医や検診機関との連絡調整	〔校医検診との兼ね合いで日程調整が少し大変〕〔各検診機関や校医との連絡調整が難しかった〕〔学校医や市教委との連絡調整など〕〔例年校医検診と合わせて行っていたので、日程の調整が難しかった〕	6
	短期間内への健診のつめこみ	〔1日にいくつかの検診が重なり大変（校医検診の日程をずらさないようにしたため）〕〔時間的余裕がなくなり、短期間内につめこんだ〕〔発育測定の日程を確保することが難しく、休み時間に実施〕〔健康診断全体が遅れたので日程に余裕がなかった（予備日などが設定できなかった）〕	10
	検査が終わっていない	〔視力の二次検査まだ行っていない〕〔時間、場所、器具の都合上、聴力検査はまだ実施していない〕	2
健診場所確保の困難さ	健診場所の確保	〔場所の確保等（空き教室がないので）大変〕〔検査会場（昨年まで使用していたところが避難所や他学校の教室に使用）〕〔使用する場所が、授業する教室であると準備が大変〕〔間借り先の学校の授業との兼ね合いもあり、実施場所を確保するのに苦勞した〕〔避難場所（1階）になっていたため、廊下で実施〕	18
	健診場所が狭い	〔体育館が使用できず、狭いホールで実施〕〔間借りのため今までのスペースの半分しかない〕〔会場が狭かったため予定時間内で実施することができなかった〕	5
	適切な聴力検査実施場所の確保	〔聴力検査をする場所がなく困った〕〔聴力検査に適した静かな場所もなく困った〕〔聴力は自校ではなく、仮の保健室で実施。音の遮断が難しいため、正確に検査することができなかった〕	3
事前準備の苦勞	事前準備の苦勞	〔書類が流失して使えなかったため、用紙から作る事となった〕〔一日も空いている日がなく、事前の指導が不十分になりがちだった〕〔計画の作成、準備等が大変〕〔間借りしている施設の中で、どのように行うか工夫〕	6
仕様危惧の準備の困難さ	器具の破損	〔視力測定表やメジャーの水没でサビで使えないものがあった〕〔身長・体重計が一緒になっているデジタルのものが使えなくなり使用できる台数が減った〕〔身長計も倒れたため、うまく上下に動かなかった〕	4

分析表:宮城大学看護学部看護科4年 加藤奈津紀

## 1-4-2 学校医検診

### 1-4-2-1 実施状況

平成 23 年 5 月 24 日付け河北新報で、「宮城県医師会による調査で、震災で 9 人の医師が犠牲となり、186 施設が全半壊・浸水被害を受けたことが分かり、医療活動に支障が出た。」と報道された。

このような大変な状況の中、「学校医検診」（内科検診・耳鼻科検診・歯科検診・眼科検診）が、計画どおりに実施できた学校は、図 21 のとおり 303 校（43.0%）だった。計画どおり実施できた率を「発育測定」の状況 38.0%と比べると、やや高くなっていくことになる。例年、「学校医検診」が「発育測定」よりやや遅れた時期に計画されることもありますが、多くの学校医の先生方が、震災後の執務多用の中でも、「可能な限り、計画された日程どおりに実施したい。」と「学校医検診」を優先的に考えてくださっていた結果である。

「学校医検診」について養護教諭が述べた中に、「……このような状況の中で、子どもたちの検診をしてくださる校医の先生方を心から尊敬します。」があった。このような文が、多くの地区でみられた。

また、「……そのため市教委が学校医である〇〇医院に連絡をとり実施可能となった。」等の記入もあり、各市町村教育委員会が各郡市学校保健会と連携を密に取りながら、懸命に各学校の健康診断推進に当たってくださっていた姿も多く上げられていた。

「被災状況別」に「学校医検診実施状況」をまとめると、図 22 となるが、「津波」に被災した学校では「学校医検診」の 100%が「計画どおりに実施できなかった」という結果であった。津波の影響は、非常に大きいものであった。

学校医の先生方は、震災後の執務が多忙を極めた。また、学校の近くにお住まいの学校医が、津波の犠牲となられた方もあった。「発育測定」では、津波に被災した学校でも 10%程度は実施できていたが、「学校医検診」は、さらに厳しい現状であったことが分かる。

「被災なし」の学校では、計画どおりに実施された学校は 53.6%で半数を超えていた。この数は、「発育測定」の状況よりやや良い結果であった。

「地震」により被災した学校の「学校医検診の状況」は「被災なし」の学校の値に近い状況であった。このことは、「発育測定」の割合と似ていた。

表1-4-2-1(1) 被災状況と学校医検診(校) N=702

	計画どおり実施できた	計画どおり実施できなかった
地震	131	189
津波	2	41
地震+津波	0	24
被災なし	169	146

図21 学校医検診実施状況

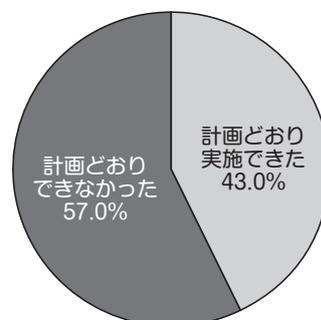


図22 被災状況と学校医検診

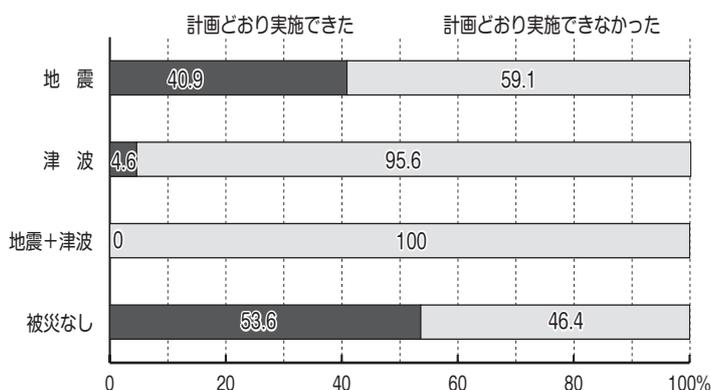


表1-4-2-1(2) 避難所開設状況と学校医検診(校)

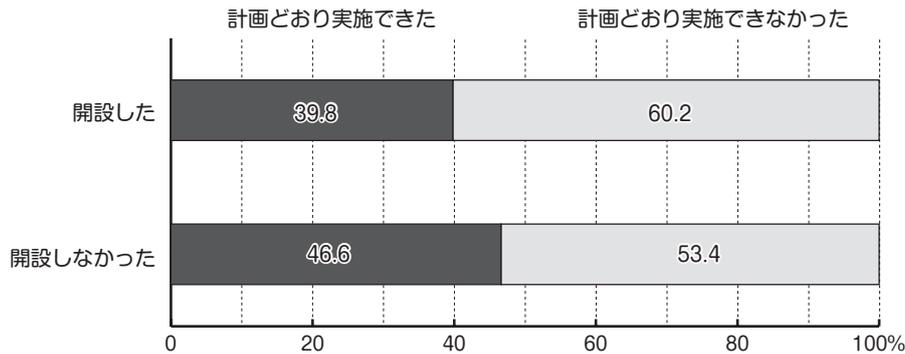
N=704

学校医健診	計画どおり実施できた	計画どおり実施できなかった
開設した	146	221
開設しなかった	157	180
合計	303	401



平成23年4月21日 耳鼻科健診

図23 避難所開設状況と学校医検診実施状況



「避難所開設」と「学校医検診」の関係を、図23で見ると、「避難所を開設していなかった学校」では「計画どおり実施できた」のが46.6%。「避難所を開設していた学校」では、39.8%であった。「避難所を開設していなかった学校」の方が計画どおりにできていたことになる。「避難所の開設」が「学校医検診」の実施にも影響していたことが分かる。

■ 1-4-2-2 学校医検診実施上苦勞したこと カテゴリー【 】, サブカテゴリー< >, コード〔 〕で表記する。

【日程調整・時間確保の困難さ】が全体の44.6% (82コード)で最も多く挙げられており、特に<学校行事との日程調整>が困難であったとの意見が38コードにのぼった。その際、<学校医との日程調整>も大変であったようだが、中には学校医が亡くなっていたり、校医の病院・診療所も被災していたりなどで、学校から連絡をとること自体が困難であったとの意見が多く、【被災による校医との連絡調整の困難さ】が全体の22.3% (41コード)となっている。〔電話・ファックス・インターネットが不通〕など、通信手段の遮断は現代では予想のつかない事態であった。これらの関連は見逃すことができない重要な要素となっている。また、給食センターの被災や、島にある学校などでは唯一の交通手段である船の運航状況などにより授業時間の変更もあって、学校と学校医だけでなく、それ以外の機関との問題も影響を及ぼしていた。そして、社会全体が落ち着かない時期であったためか、「検診どころではない」と言われるなど、校医からの要望も多かったようである。それらが重なり、養護教諭がより苦勞したことは想像するに難しくない。

【実施場所確保の困難さ】に18コード挙げられているとおり、間借り等で本来の検診場所を実施した学校も多く〔1/3スペースでできるように生徒の待ち時間をあまりつくらないようにした〕など、場所設定や児童生徒の管理に工夫した様子が現れている。また、検診器具についても必要数の確保や消毒方法で同様である。検診前には〔津波で母子手帳が流される〕などして事前調査に手間取ったり、検診中においても〔暑さ対策〕や騒音、プライバシーの問題にも配慮するなど、大変な思いをしながらも、できるだけ児童生徒や学校医の負担にならないように努力した養護教諭や教職員の姿が浮かんでくる。

〈担当:大槻・原田〉

表1-4-2-2 学校医検診実施上困ったこと

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的なコード	コード数 (153人が回答)
日程調整・時間の困難さ	実施計画の立案	[できるかどうか学校開始の時期もわからず、見通しがつかなかった][どこで学校(始業)を始めるのかがなかなか決まらず、日程調整したくてもできなかった][ガソリン普及後に検診するといわれたため日程がなかなか決まらなかった][校内全ての予定などが決まらず、先生方も子ども達も落ち着かない中で予定を組むのが大変]	8
	時間調整	[検診の開始時刻がほとんど午後1時からだったため時間調整が大変(給食センターが被災し、低学年が給食なしという状況だったため)][島にある学校なので校医が船で来校するがその船の時間変更のため、時間の調整が大変。校医にも検診時間よりも船で移動する時間が長くご迷惑をおかけした]	3
	学校行事との日程調整	[日程変更によって、運動会の練習時期と重なってしまい、担任の先生方に練習時間の変更をしてもらった][日程の変更が何度もあり、行事は予定どおり進めるということだったので、合間を見つけて日程を調整するのが大変だった][内科、歯科、発育測定を合わせて1日で行うので、日程の調整が難しかった][乗船前の検診も兼ねているので、乗船の日程の決定から乗船までの日がなく、とにかく急だった]	38
	他校との日程調整	[耳鼻科検診を幼、小、中、同じ日に実施するため、連絡調整が大変][学年ごとに、受け入れ校と日時を調整して実施][2校に分かれていたので、両校の学校行事、校医先生の都合、本校の学校行事、バス通学のため、帰りの時間帯等々調整が大変]	7
	学校医との日程調整	[校医も忙しく、校内の行事等もあったため、日程調整が難しかった][忙しいDrなので、一度変更となるとなかなか日程を合わせるのが大変だった][内科検診が2名の校医で実施予定となっていたため、2名で1回→1名で4回の日程となり変更するのに手間取った]	15
	変更した新しい学校医との日程調整	[開業されていた医院が流出し、公立の病院の勤務医となったため、日程調整が大変だった][内科校医が変更になり、新しい校医が担当する学校が多く、日程調整が大変だった][学校医が変わったため、日程を決めるのが大変だった。一度決めた日にちも、学校行事の関係の変更で、何度校医に電話をしたかわからない][校医の変更で計画の立案や実施に再検討が必要だった]	4
	その他	[学校の状況はまだ整っていなかったが、Drの都合もあり(Drも被災したので)日程は予定どおりにしてほしいとの希望から、予定どおり実施][眼科検診は校医の都合により、始業式の翌日に変更になったため、低学年の下校時刻を遅らせた][今年度転動してきたため、日程調整するのに時間がかかった]	7
実施場所確保の困難さ	実施場所の確保	[狭い所での実施で、児童管理、器械設置、窮屈だった][校舎を間借りしており、検診会場となる特別教室も借りる等、大変協力していただいた][会場変更せざるを得ず、授業とぶつからないよう調整するのが大変(検診会場である応接室が断水)][学年ごとに、受け入れ校と場所を調整して実施]	16
実施場所確保の困難さ	実施場所確保の困難による工夫	[小学校の保健室を借りているので、1/3スペースでできるように生徒の待ち時間をあまりつくらないようにした][検診場所がせまいため、児童の出入り、並び方等工夫]	2
器具の準備・消毒の困難さ	器具の流出・破損による準備・借用	[歯鏡・ライトなど学校側で準備する検診器具は全て借りて実施][物品の準備も他校と重なると検診が出来なくなる][日程変更により市教委から鼻鏡を借りることが出来るのか不安だった]	12
	器具の消毒場所・消毒器具・水の確保	[保健室が使用出来ず、消毒が大変][水道の復旧が完全でなかったため、消毒や洗濯などの水の確保が大変][歯科、耳鼻科検診で使用する器具の消毒場所が保健室から食堂の厨房を借りて行うことになり大変であった]	6
被災による多数の転出入の混乱	転出入による未受診者の発生	[転入出児童で未受診になった児童がいた][県外、海外避難者が健診を受けられなかった]	2
	転出入生の検診受診の確認	[途中からの転入生が多く、前の学校で健診を実施してきたかどうかを一人一人確認][転出入等があり、校医検診受診の有無の確認等に手間をとられた]	2
	転出入生の記録の整備	[他県に避難した児童がまた戻ってくることになり、表簿、保健調査票の整備に苦労した]	1

被災による学校医との連絡調整の困難さ	学校医の被災による急な校医変更	〔検診は予定通り行っていたが、校医を引き受けられなくなり(学校医の病院が被災してしまった)途中で校医が変わった〕〔歯科校医が新しい先生であることもあり、スムーズに検診を進めていくことが難しかった〕〔内科医の病院が被災して、校医変更するまでの学校の対応が分からなかった。電話不通などで連絡手段が整うまで、他地区の学校との日程調整が大変だった。市教委の対応を待つべきか、動くべきか迷った〕	3
	学校医の被災	〔校医の先生の中には病院が被災された方もいた〕〔入学式・始業式が変更になり、学校医と再調整しなければいけないが、被災状況等がよくわからなかったり、電話番号が変更になった校医の先生もいたり気をつかった〕〔管理校医が震災の為、診療所が使用できず、廃業となった〕	13
	被災した学校医との連絡調整の困難さ	〔被災された校医と連絡がとれず日程の相談をすることすら難しかった〕〔通信不能な状態が続き、病院が被災して休診していた校医が3名いたので、連絡を取るのが大変〕〔被災した病院(歯科、眼科)もあり、学校医との連絡がとれず、しばらくの間検診の予定が立たなかった〕〔校医が亡くなられたり、病院・施設が被災したため、校医と連絡が取れず日程調整が困難〕	20
	被災による学校医と連絡を取り合う困難さ	〔日程調整で校医と連絡がとれず大変(今でも電話、ファックス、インターネットが不通)〕〔連絡がとりにくい状況が続いたため、眼科検診の日程が決まるまでかなりの日数がかかった〕〔4月は電話が通じなかったので、直接お会いして交渉〕	5
その他	検診実施前	〔津波で母子手帳が流され、事前調査で確認できない生徒もいた〕〔事前調査も間に合わなかった〕〔問診票の回収を急いでもらったケースもあった(配布から回収まで期間がなく)〕〔震災の影響で事前打ち合わせ時間がとれず、検診当日に簡単な打ち合わせをした〕	4
	検診実施中	〔会場の衛生管理など〕〔暑さ対策〕〔整列させるだけで大変なのに、名前の確認も大変だった〕〔校庭に仮設住宅の工事が入っており、内科(聴診)の際に大変だったそう〕〔併設のため、学校医が保健室や学校の入口がわからず不便だった〕〔生徒を静かにさせること〕〔男子生徒、女子生徒が同時に別の会場で実施するためとても忙しかった〕〔検診時間の延長により、職員配置等も変更した〕	8
	検診実施後	〔他の生徒に聞こえてしまい、プライバシーが守られないと感じた(内科検診受診後、口頭での保健指導において)〕	1
	その他	〔状況を説明する電話をかけた)〕〔詳しいことは保健連絡会でと言われたが、その会が開かれずどう動いて良いのかわからなかった〕〔新規採用で新しい土地に来たので頼れる先輩等がおらず困った〕〔検診時期が総体の予選にかさなり、例年よりも欠席者が多くなった〕〔欠席者が多く、未検者をできるだけ少なくしようと努力した〕〔検診が今年は7月までかかってしまい、6月の野外活動、修学旅行の引率もあり、多忙〕〔養教1人のため、毎日つな渡りのような実施〕〔市教委との連絡〕	8

分析表:宮城大学看護学部看護科4年 加藤奈津紀

参考 検診機関による検診で苦労した点

カテゴリー	コード	コード数 (9人が回答)
日程調整の困難さ	〔検診の日程調整に大変苦労した。校医検診の日程の合間をぬって検診を入れたので、ほぼ毎日検診(準備等含む)という時期があった〕〔検査機関のもの(心臓、血液)を日程変更(学校開始が遅れたため)〕〔学校としての休校判断が遅く、検診機関と連絡調整をする上で大変困った〕〔始業が遅れた影響で尿検査が遅れた〕	4
実施日程延期による苦労	〔心電図検査はまだ実施されておらず、10月末の予定(検査機関の被災により)。大事な検査なので、一学期中になんとかならなかったのか。(他県に依頼するとか)〕〔1年心臓病検診が6月末までに実施できなかった。こういう時だからこそ早期に実施できたらよかった〕〔健康診断は10月にも予定されている(心臓・血液・尿検査)〕	3
検診車の設置場所・電源確保の困難さ	〔検診車の電源と駐車場の確保〕〔(レントゲン)校門前の道路が通行止めのため、検診車が入れず、道路に駐車して行った時は人手と安全面の配慮が大変〕	2

分析表:宮城大学看護学部看護科4年 加藤奈津紀

1-4-3 事後措置

1-4-3-1 実施状況

学校安全施行規則第9条では、「学校においては法第13条第1項の健康診断を行ったときは、21日以内にその結果を幼児、児童又は生徒にあっては当該幼児、児童又は生徒及びその保護者に通知するとともに、法第14条の措置をとらなければならない。」としている。例年は、夏休み前には全家庭に結果を届け、受診の必要な児童生徒は受診する段取りとなっている。

「事後措置」の実施状況は、図24のとおりで、「計画どおり実施できた」というが558校(79.8%)であった。

宮城県教育委員会から出された11月17日付け資料「当面校舎等を使用できない小・中学校一覧」によれば、本県で今年一番遅かった始業式が行われたのは5月10日であったとされている。夏休み前は、震災から約4ヶ月間を経過した時期であり、学校教育もいろいろな面で復旧される中、養護教諭も「どうか例年どおりに事後措置を進めたい。」という気持ちで取り組んだことが、この結果につながっていたのではないかと推測される。

図25では、「被災状況別」に「事後措置」実施状況を調べた。「被災なし」の学校で「計画どおり実施できた」は87.0%と、大変高くなっていった。また、「地震」のみによる被災を受けた学校でもその数は、80.6%であった。この二つの結果を考えると、東日本大震災が「地震」のみであれば、事後措置も例年どおりにできた学校が大変多かったはずである。

「地震+津波」と「津波」に被災した学校では、「計画どおり実施できた」が50%に満たない状況であった。しかしこの地区の「発育測定」や「学校医検診」の実施状況を示す図15並びに図21と比較すれば、実施率は非常に高くなっていることが分かる。

図24 事後措置の実施状況

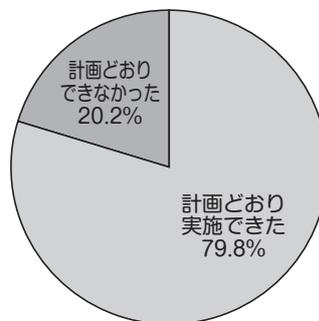
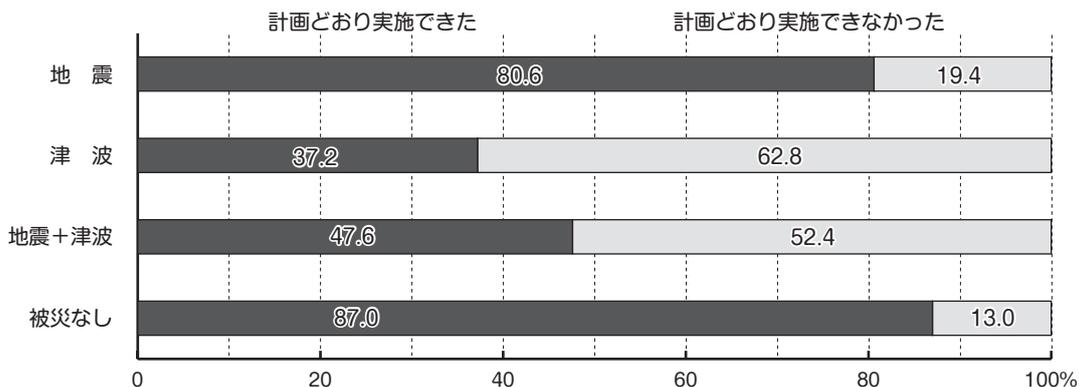


表1-4-3-1(1) 被災状況別事後措置実施状況(校) N=699

学校医健診	計画どおり実施できた	計画どおり実施できなかった
地震	258	62
津波	16	27
地震+津波	10	11
被災なし	274	41

図25 被災状況別事後措置実施状況



特に、「地震+津波」に被災した地区では、「校医検診」が計画どおりできたのは、0%であったのに対して、「事後措置」が「計画どおりできた」のは47.6%であった。

この結果から、養護教諭の努力が伝わってくる。アンケートの中には、「日々の対応におわれ、事務処理の時間が十分になく、自宅に持ち帰っている。」「担任の疲れているため、養教がすべて記入まで行った。」という記入があった。

また、「検診後まとめたり、通知するためのお便りを作成する時間をなかなか作ることができず、気持ちばかりがあせってしまう。」や「校医検診の日程が遅れたため、集計や治療勧告など見落としがないか、夏休み前に実施できるか不安。」など、焦燥感を持っていた。

仮設校舎の完成が夏休み以降になったところは、その後に様々な検診が行われたところがあり、とても計画どおりの事後措置はできなかった。回答内容を見ると「計画どおりにできなかった学校」には、このような校舎や保健室など物的被害による限界があった。

図26では「避難所開設」と「事後措置実施状況」の関係を調べた。

「避難所を開設した学校」で、「計画どおり実施できた学校」が77.0%。「避難所を開設しなかった学校」では82.8%だった。5.8%の差は、5%水準で見ると有意な関連は見られないが、 $p=0.06$ であることから、「避難所の開設」が、事後措置の実施に弱いながらも影響を与えたと言える。

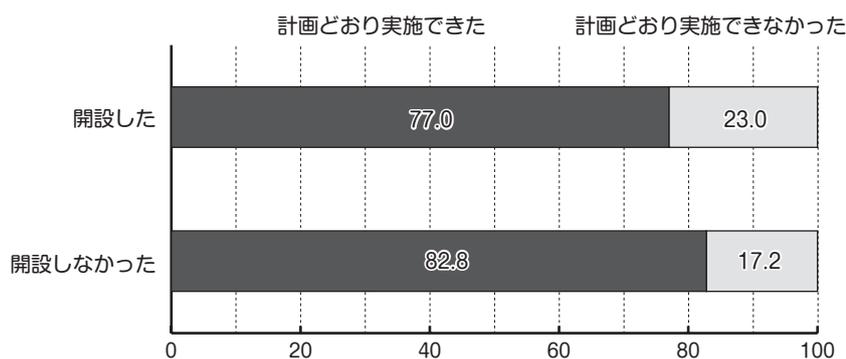
「避難所の開設」は「事後措置の実施」にも影響を与えていた。

表1-4-3-1(2) 避難所開設状況と事後措置実施状況(校)

N=703

	計画どおり実施できた	計画どおり実施できなかった	合計
開設した	281	84	365
開設しなかった	280	58	338

図26 避難所開設状況と事後措置実施状況



■ 1-4-3-2 健康診断の事後措置で困っていること カテゴリー【 】, サブカテゴリー< >, コード〔 〕で表記する。

健康診断事後措置の遅れについて、【日程の大幅なずれや時間不足による事後指導の遅れ】についてのコード数が多く、32 (24.1%) のコードがあげられていた。〔入学式・始業式が遅くなった分、検診も遅く始まり、例年の日程での事務措置はできなかった (通知・まとめ・記入・統計等)〕〔2学期に持ちこす健康診断もあり、統計処理はまだ行えていない〕など、通常とは違う中で事後措置を行ったということがわかる。

【被災により、多数の転出入があり混乱】カテゴリーにおいては、31 (26.7%) のコードが出された。〔被災地からの転入生が多数あり、転入前の学校で健康診断が実施できなかったようで、それに対して十分なフォローができなかった〕〔転入生が50名以上いたが、一斉に転入してくるわけではないのでその都度追加で測定をしたり、検査したりして、いつまでも測定・検査に追われた〕などがあげられていた。検診受診状況の把握が難しいことと、学校医による検診が終了したあとに転入した場合などは受診ができないなどの実情がわかった。

健康診断票に関しては、〔他の被災校から転入してきた子どもの健診票が届かない。津波で流された学校もあり、連絡しているが、こちらで作ったほうがいいのか困っている〕など、健康診断票が届かず、受診状況の確認や以前のデータがわからないため、治療勧告ができないなどの支障があったようだ。

保健関係の書類の記入・取り扱いでは、〔流出・汚染した保健関係の書類の作成や作り直し〕を行った養護教諭は13人 (11.2%) いた。津波被害にあった学校がほとんどで、〔データが流失〕したためであった。また、〔被災地からの転入児童の健康診断等の書類が全くなく、全て作り直した〕という学校もあった。

治療勧告後の受診率の低下では、<受診率の低下>を上げている養護教諭は7人 (6%) であった。震災後は受診する子供が減り、〔受診報告書を持ってくる子供たちも普段の3分の1に減った〕学校もあった。

被災した家庭・病院の現状とそれに対する配慮では、〔医療機関への受診勧告を出すのに各家庭の被災状況等への配慮が必要〕だと答えている学校もあった。また、〔沿岸部に住んでいる生徒に関しては、病院まで遠く、医療費や交通機関等の問題があり、なかなか受診できない生徒〕もいた。

病院被災による通院の困難さとしては、〔震災でかかりつけの病院が流され、再開している病院が少なく通院が難しい生徒〕がいたり、〔かかりつけの病院が再開するまで待つ〕という生徒もいた。

養護教諭の仕事量の増加・時間不足では、〔学校内の片付けや整理などから始まり、全て予定通りに進まなく、再調整が大変で多忙なため体調を崩した〕養護教諭もいた。また、〔宿泊訓練や学校保健委員会が一学期中にあり、事務処理の時間が十分とれず、自宅に持ち帰っている〕例もあった。震災後、〔体調不良やけが人が多く保健室来室者の対応に追われ、事務的な仕事の時間がとれなかった〕と答えている養護教諭も少なくない。ここでは、仕事量が増加し、時間不足であったと12人 (10.3%) の養護教諭が回答しているが、同じような状況にあった養護教諭は多くいたと思われる。その他の所では、〔校医検診が遅れたため、集計や治療勧告に見落としががないか〕や、〔通知をうまく回収できるか不安だった〕、〔検診後のお便りを作成する時間がなく、焦りを感じた〕養護教諭もいた。

〈担当:我妻・花洲〉

表1-4-3-2 健康診断の事後措置で困っていること

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的なコード	コード数 (116人が回答)
日程・時間確保の困難さ	検診が終わっていない	[全ての健診が終わっていない] [2学期に入っても全ての検診が終わっていない] [市教委への報告などは例年通りの日程で健診前にメ切のものもあり、健診が後ろにずれこんでしまった] [耳鼻科検診が9月実施であり、せめてプール入水前には、検診を終え、お知らせを出したい]	6
	再検実施の困難さ	[視力再検が日程、場所の調整がつかず、実施できなかった]	1
日程の大幅なずれや時間不足による事後措置の遅れ	事後措置の遅れ	[入学式・始業式が遅くなった分、健診も遅く始まり、例年の日程での事務措置はできなかった(通知・まとめ・記入・統計等)] [結果通知・まとめ・記入と時間のない中での仕事となり大変だった]	5
	記入・統計処理の遅れ	[2学期に持ちこす健康診断もあり、統計処理はまだ行っていない] [健康診断表の記入、統計処理が遅れた] [健康カード入れの記入はできなかった] [尿検査、心臓病検診(結果)が一学期中にできず、記入できなかった]	10
	結果通知の遅れ	[検診が遅く始まり、事後措置の連絡がやっと終業式に間に合った] [健康診断の結果の通知が夏休みに入る頃まで遅れた] [内科検診が夏休み前に終了しなかったため「健康診断結果の通知」が全校生徒に全項目できなかった(一部のクラスは内科検診結果が後日になった)] [三者面談(7月実施)で保護者に全部の健康診断の結果を配布していたが、今年度は間に合わず全てが少しずつずれている]	13
	保健指導実施困難	[毎年行っている各クラスでの健診事後指導の実施、保健室来室者の対応などでまだ出ていない] [時間的に余裕がなく、十分な保健指導ができなかった] [児童数が多いため、きめ細やかな保健指導ができない]	4
被災による多数の転出入の混乱	検診実施の確認	[転出入の生徒の出入が頻繁にあって、統計や誰がどの検査を受けていないかという把握が大変] [転出入が多く、健診票もなかなか送られてこない状況だったので実施したのかどうかや記入について困った] [未検査者が多く追加検診は夏休み中に各自としたが、確認が取りづらい]	4
	未検者に対するフォロー	[転入生が多く、健康診断未検査のフォローが大変] [転校生の検診(未検の場合)で校内で測定できない内科、歯科、耳鼻科、眼科などの対応が大変] [転入生が50名以上いたが、一斉に転入してくる訳では無いので、その都度追加で測定したり、検査したりして、いつまでも測定・検査に追われた]	4
	未検者の再検実施不能	[転入してくる生徒で、健診が終わってしまっているため受診出来ない項目があった] [健康診断実施時間中に転出・転入があり、校医検診や検査機関の検査を受けられない児童生徒がいた] [被災地からの転入生が多数あり、転入前の学校で健康診断が実施できなかったようで、それに対して十分なフォローができなかった]	6
	転出入生の健康診断票の取り寄せや管理	[他の被災校から転入してきた子どもの検診票が届かない。津波で流された学校もあり、連絡しているがこちらで作った方がいいのか困っている] [転入・転出が激しく、健康診断票の書類関係がそろわず管理を気を付けなければならなかった] [津波や避難指示の出た地域からの転入生の健康診断票がそろわなかったため、以前のデータがなかった] [他県に避難した児童がまた戻ってくることになり、表簿、保健調査票の整備に苦労した、治療勧告書の様式を統一することになり検討した]	12
	その他	[被災地からの転入者、海外や県外の避難者がいたため、統計がまとまらなかった] [集計でも大変] [急な転出児童への治療勧告が不十分であった] [児童の転出入が多かったため、慌ただしく間違いのないよう気を遣った]	5
保健関係の書類の記入・取扱い	流出・汚染した保健関係の書類の作成や作り直し	[健康診断票が津波で汚れたため、きれいにし、乾かしてからの記入となった。記入も紙がゆがんでいて記入しにくいし、汚れや臭いがひどいが使用し続けなければいけないのか?と困っている] [津波で紛失した児童の以前のデータがなく、比較することが困難であった] [被害が大きかった地域からの児童は、健康診断票等の書類が全くない子もいて、すべて作りなおした] [データも流失したため、他校の様式ソフトを参考にして変更した]	13
	健康診断票の日付についての疑問	[健康診断簿の日付をいつにしたら良いか] [健康診断票の日付について(6/30を過ぎている場合の記入について)]	2

受診率の低下	受診率の低下	[治療勧告を出しても、受診しない児童が多い(受診率が低い)。震災後、受診する子が少なくなったと校医は言っていた][結果を受けて受診勧告書を出す、医療機関を受診して報告書を出してくる生徒が1/3ほどしかこない]	7
被災した家庭・病院の現状とそれに対する配慮	被災した家庭に対する受診勧告の困難さ	[医療機関への受診勧告も各家庭の被災状況等も配慮し、よりきめ細やかに勧めていく必要が出てきた][それぞれの家庭の事情もあり、むし歯の治療などは痛みがないと後まわしになりがちだが、強く勧めにくい状況の場合もある][沿岸部に住んでいた生徒への受診勧告時には医療費や交通機関の関係上、なかなか受診できずにいた]	6
	病院被災による通院の困難さ	[震災でかかりつけの病院が無くなったり、検診を再開している病院が少なく通院が難しい生徒もいる][かかりつけの病院が流された、または再開していないため、病院に行っていないという家庭もある][当時は被災して休んでいる病院も多く「治療に行きたいが、かかりつけが復旧するまで待ちます」というおうちもあった]	5
養護教諭の仕事量の増加・時間不足	養護教諭の仕事量の増加	[早く出したいが(結果通知)、合宿、修学旅行も1学期のため思うように進まない。学校保健委員会も7月初めのため毎日何時間も家で統計や歯の検査票も記入。うつ病になりそうだった][すべてが予定どおりに進まなくなった状態で再調整、学校内の片付け、整理など始まりから多忙すぎて、体調がすぐれない][日々の対応に追われ、事務処理の時間が十分になく、自宅に持ち帰っている][担任も疲れていたため、養教がすべて記入まで行った]	10
	事務処理の時間不足	[来室者の対応におわれ、事務的なこと(健診結果の通知の準備まとめなど)をする時間が取れなかった][体の不調を訴えるものやけが人が多く、保健室利用者数が多く、事後の処理をとる時間がなかった]	2
	時間の確保困難による気持ちの焦りや不安	[検診後まとめたり、通知するためのお便りを作成する時間をなかなか作ることができず、気持ちばかりあせってしまう][校医検診の日程が遅れたため、集計や治療勧告など見落としがないか、夏休み前に実施できるか、不安][通知の回収が夏休み明けになってしまい、うまく回収できるか不安]	3
その他	その他	[学校における検診はスクリーニングと保健だよりなどで啓蒙しても、毎日小さな苦情が多い][福島からの(原発関連)で転入してきた生徒への医療費免除についての書類に戸惑った][医療券発行が大幅に遅れたため事後指導ができずに困った。][医療券発行が大幅に遅れたにもかかわらず使用期限を前年度と同じにしているため治療が進まずに困っている。手続き等で事務量が多い][被災地からの転入児童分を統計に入れたところ、5/1現在の在籍ということで、その後の転入者を除き、除いた児童はどこに入っているのか、疑問][統計はエクセルを用いて行っているが、市でパソコンに統計ソフトを入れて頂けると助かる][尿検査陽性者が例年の17.5%と多数]	10

分析表:宮城大学看護学部看護科4年 加藤奈津紀